

宇城市「駅まち☆未来創生会議」
会議議事概要日時：平成29年11月20日
13:30～14:50
場所：宇城市役所 庁議室**1 開会**

事務局より開会

2 委員紹介

各委員より自己紹介

3 委員長挨拶

挨拶前に委員長及び委員長代理については、事務局で選任した旨を説明し承認。

(委員長挨拶要旨)

宇城市では「宇城市まち・ひと・しごと総合戦略」に掲げている“地域の稼ぐ力を高め、良質な雇用の創出”等の基本目標に向かって様々な政策に取り組んでいる。

本会議はそれらに加え、市の重要な交通拠点であるJR松橋駅、小川駅に焦点を定めて空き店舗の対策、商店街の活性化、公共交通対策を総合的に推進するための政策を検討するための場として設置させていただいた。本会議では両駅周辺の将来像を描くという観点よりも、これまで市が行ってきた両駅の開発構想の検討計画、周辺の整備状況を事務的に整理して今後活性化のために必要な政策を議論させていただきたい。

両駅周辺の活性化策を検討するにあたり、本日までご出席いただいている民間の委員の方々のご意見は欠かせないので、積極的に率直なご意見を賜りたい。

4 開催要綱（案）の確認

事務局より資料1開催要項（案）について説明し承認。

質疑なし。

5 会議設置趣旨及び今後の進め方

事務局より資料7検討エリアの説明後に資料2会議設置趣旨及び今後の進め方について説明。

質疑なし。

(説明要旨)

JR松橋駅、小川駅周辺地域において大規模店舗等の進出や平成28年熊本地震の影響により空き店舗、空き家、空き地が多く点在している。また、駅に乗り入れるバスの便が少なく交通結節点（ハブ）機能が果たされていない等の問題がある。

本会議を設置し、現状と課題、必要な事業、支援策、取り組み方針等を議論し、平成30年3月までに一定の結論を得ることとする。

また、本会議には3つのワーキンググループ（以下、WG）を設置するものとする。

- (1) 公共交通対策WG
- (2) 駅まち活性化検討WG
- (3) 小川駅開発構想推進WG

6 委員からのプレゼンテーション

JR松橋駅周辺整備に係るこれまでの検討経過等について(土木部)

(成田委員) 資料 3 により説明。

(説明要旨)

【JR松橋駅周辺整備に係る検討経過】

平成 20 年度に基本構想、基本計画を策定。当初は九州新幹線の退避駅を誘致し、駅西側を定住拠点エリア、東側を商業エリアとした大規模な計画を策定。駅西側、東側については合併前の旧不知火町、旧松橋町の懸案事項として捉え、新市の玄関口、県央の交通結節点としての機能充実を図ることを目的として検討されてきた。

【基本構想策定時の市民ニーズ】

- (1) アクセス向上・駐車場の整備、駐輪場の整備、歩行区間の整備
- (2) 交流の場・コミュニティ施設の整備、避難機能を備えた公園、喫茶・レストラン

基本構想、基本計画については平成 21 年の 3 月議会で報告し、平成 21 年度に住民説明会を行い、平成 22 年度に駅前広場概略設計、第 1 期社会資本整備総合計画を作成しハード事業 10 計画、ソフト事業 3 計画を掲げている。

【JR松橋駅の現在の整備状況】

新幹線駅が出来なかったため、西側の整備構想を中心に計画の縮小や見直しをせざるをえなくなった。

- (1) 整備済及び整備中の主な事業：自由通路整備、駅前広場整備、駐車場・駐輪場整備、駅舎の改築
- (2) 事業中止及び未着工事業：新幹線駅建設、鉄道横断道路整備、駅西側の区画整理（住宅用地の整備）、排水対策事業

区画整理については、駅西側が開発されることで宅地化が進んでいくのではないかと考えている。排水対策事業については、現在、駅西側に幅員 12m の道路を整備中であり、それに伴い必要となってくるので、今後整備する予定。

【課題】

- (1) 駅東口は広場が狭く各種車両が交錯し、歩行者動線が確保されていない。
- (2) 情報発信機能が整備されていない。
- (3) 憩いスペース、安全・安心な市街地の形成、子育て世代が気軽に遊べる空間の整備が必要。

【濱まち再開発計画】

平成 23 年度に国の補助事業を活用し、松橋駅周辺の「濱・まちおこし会」が主体となり、商店街の区画整理や再開発ビルの建設等を構想する等の開発計画を作成。地元主体で計画まで作成したが、資金面で難航し事業着手まではされていない。

【松橋駅周辺整備計画図】

資料により現在工事中や今後の工事予定について説明。

(村上委員長) 松橋駅周辺整備計画図は資料 5 ページの社会資本整備総合計画 2 期の内容か。平成 24 年度に社会資本整備総合計画が採択、その後の取組によって平成 29 年度の 2 期計画の採択に繋がっているということか。

(成田委員) ハード計画は 1 期・2 期両方で進行し事業着手している。

(村上委員長) 濱まち再開発計画は地元主体で計画作成したと書いてあるが、実際の計画作成主体は市になるのか。どういう位置付けか。

(成田委員) 「濱・まちおこし会」が平成 21 年 1 月から活動を開始し、現状の調査や周辺住民の意見を聴取し地域の方々で作成した。市が作成主体という訳ではない。

(村上委員長) 国の補助事業のスキームとして、まちづくり団体が作成する必要があったということか。

(成田委員) はい。補助事業として 100%の補助があったもの。

(前出委員) 「松橋駅周辺整備計画図」の整備予定地は全部市の所有地か。

(成田委員) 買収が済み市の所有地である。東側の赤い太い線の場所はまだ民地でこれから買収する必要がある。

(2) JR小川駅周辺整備に係るこれまでの検討経過等について (企画部)

(岩清水委員) 資料 4 により説明。

(説明要旨)

【経緯】

小川駅周辺地区はここ数年で大きく環境が変化した。宇城・氷川スマート IC が平成 26 年に開通し、当初は交通量が少なかったが、国道 3 号からのルートが完成した平成 28 年からは交通量が増加している。

また、JR 鹿児島本線にかかる跨線橋が開通し大きく状況が変わった。駅西側からイオンモールに行きやすくなり駅西側が活性化してきた。

これらの状況から、駅西側に改札口が作れないか構想策定を進めている。

さらに特筆すべき点として、人口減少が続いている宇城市の中でも小川駅周辺地区は人口が増加している地域である。開発スペースがあったのも一因ではあるかと思うが、住みやすいと認知され始めたからではないかと思っている。

【必要性】

平成 33 年に熊本駅の新駅ビルが完成すればビジネスの拠点も次第に移るのではないかと思っている。そうすると、ますます JR の利用者が増えると捉えている。このようなことから、小川駅西側の周辺整備をどのように進めていくか検討していく。

また、駅西側にある市営住宅仲ノ江団地が老朽化のため政策空き家（退去した部屋に次の入居者を入れない）となっており、1 棟ごとに全戸退去後は解体している。徐々に空き地化が進むため、その利活用も検討する。

(3) 地域公共交通の現状について (企画部)

(岩清水委員) 資料 5 により説明。

(説明要旨)

【宇城市の公共交通】

宇城市には鉄道が JR 鹿児島本線、三角線の 2 線、5 駅あり、バスが 3 社 20 系統、乗合タクシーが 4 系統ある。

【課題、補助金の推移】

路線バスの利用者減に伴い、赤字補てんのための補助金が増加している。

また、交通空白地域が点在しているため併せて対策していく必要がある。

松橋市街地を走る路線バスについては、153 便中 118 便 77% のバスが松橋駅を通過していない現状である。

赤字バス路線を廃止し乗合タクシーに転換した地区においては、補助金が約 60% 削減された実績もあり、他の地区においてもこうした見直しを検討していく必要があるのではないかと思っている。

【電車とバスの接続】

松橋駅を通るバスの上り 18.4%、下り 39.5% が電車と連結できていない。利用者からすると電車とバスの連結が求められているのではないかと思う。

(4) 空き家・空き店舗・空き地の現状について（企画部・経済部）

（岩清水委員）資料 6 により説明。

（説明要旨）

平成 27 年度の空き家調査については、平成 28 年 3 月に結果が出ているが、平成 28 年 4 月に熊本地震が発生し空き家は公費解体され空き家が減少したものの、避難されたことにより住家が空き家になって増加していることも考えられる。

空き家バンクについては、4 年で 8 件と利用が進んでいない。空き家所有者は売りたい、利用者は借りたいというズレが主な理由ではないかと思っている。

今後は空き家バンクの利用を促進し、移住・定住に繋げたい。

（前出委員）空き家バンクの空き家は宇城市全域が対象か。成約数の 8 件というのはどういう人が多いのか。

（岩清水委員）宇城市全域が対象。利用者は U ターン等の宇城市に帰って来られる方が多く、仕事も一緒に探される方が多いので、住まいと仕事をセットにした相談窓口を設けている。

（村上委員長）空き家・空き地バンクは移住者向けに利用されることをメインに考えられている制度と思われるが、空き地を市民交流の場や地域イベントで使用する、空き家を民泊、空き店舗にサテライトオフィスを誘致する等の政策面での議論はされていないのか。

（岩清水委員）基本的には移住・定住という観点から空き家バンクができたことから、それ以外の用途については議論されていない。

（村上委員長）地域活性化を促進させるための利活用の政策議論はなされていないということか。

（岩清水委員）そうだ。

7 意見交換

（中村委員）地域公共交通について、理想としては JR の時刻に合わせたバスの配置が一番だと思うが、乗務員不足でダイヤが増やせない現状である。説明があったように松橋駅に入らないバスが多くあるので、今後は駅周辺整備が進めば駅に入って営業所に向かうといったような面も考えていく必要があると思う。

（坂本委員）不知火方面から松橋駅西側へ行く道が狭いままだが、国道 266 号から入れる計画はあるか。

（成田委員）駅西線を計画しており、駅西側からファミリーマートへ繋がる道を少し曲げてウキウキロードと接続し大型バスが入れるような路線を計画している。

（坂本委員）松橋駅東側へ行く道を広くする計画はあるか。

（成田委員）県道になり、宇城地域振興局が管理しているので、県の判断にお任せしている。

（前出委員）JR で通勤しており、熊本駅から松橋駅まで 16 分と非常に近い。立地的な優位性はあるのかなと感じている。バスとの連結が不十分で、バスの連結がもう少しうまくいけば利用者は増えるのではないかと思う。人が多いのに賑わいがもう一つかなと思うので、賑わいの創出に繋がっていくのではないかと思う。

（村上委員長）駅を降りてバスの連結が大事ではないかということと、バスに乗ってからの行先が松橋高校前や県の振興局前で停まらないので、それで利用促進できるのかという議論の余地はある。

(前出委員) 環状バスがあれば便利。

(村上委員長) JR利用者が松橋駅で降りて、行先はどこか調査は必要。

(稲津委員) 資料7の検討エリアについて、メインエリアや関連エリアが色分けされているが、それよりもメインエリア内の主要道路の空き家や空き地を優先的に検討してはどうかと思う。主要道路沿いは目立ち易いため優先順位の上の方にしてはどうか。

(迫田委員) 松橋駅周辺整備計画図を見ると、駐輪場を整備する計画は分かるが、駐車場の整備計画はされてないのか。

(成田委員) 駅東側に駐車場は計画していない。

(迫田委員) 現状は道路にはみ出した状態で駐輪してあるため、早く駐輪場の整備をしていただきたい。東側にも駐車場は必要ではないかと思う。昼間の時間帯はマルショクの駐車場に駐車されている方が多くいる。

(成田委員) 駐車場の整備となると敷地の確保が必要になり、現在のところ計画はないが、民間の駐車場(月極め)が200台ほどある。駐輪については駆け込みで停めて行かれるので、後から整理しないといけない状況。今まで駐輪の整理をしていただいていた方ができなくなり、職員がたまに整理に行っている。

(中村委員) 松橋駅東側にバス停があり、バスを停めるスペースがあるが、迎えの車が駐車していてバスが停められないということが多々ある。松橋駅に電話して移動してもらっている状況なので、迎えの車の駐車等も考えて駐車場の整備は必要と思う。

(財津オブザーバー) 振興局の職員もJRを利用して、松橋駅から振興局まで自転車や徒歩で通勤している。高校生の利用者も多く1日1,800人の乗降もあるということなので、松橋駅からどこに向かっていいのかデータは必要ではないか。ある程度同じ方向に向かっているのであれば、バス路線の参考にもなる。

(村上委員長) 今日の現状認識を踏まえて各WGで深掘りした議論を行い、来年度に向けた政策の立案に生かしたい。

8 閉会